

(2) 教育行政経営の基盤強化

- 生涯学習施設の耐震化状況について

1 公民館等

公民館等は、市民の生涯学習活動の拠点として、芸術文化等様々なテーマで多くの団体が活動している施設であるとともに、地域防災拠点にも位置づけられていることから、利用者の安全性に配慮し、計画的な改修を進めているところである。

ア 平成28年4月1日までの耐震化状況

項目	対象施設
①全施設数（公民館等）	37
②新耐震基準施設	10
③旧耐震基準のうち補強不要な施設	1
④旧耐震基準のうち施工済施設	9

完了済み施設 ②+③+④
20施設
耐震化率 54.1%

イ 平成28年度実施内容

○改築工事

公民館5施設

- 幸栄公民館（平成29年2月完成予定）※栄町公民館（現施設）は耐震済
- 芝南公民館（平成30年2月完成予定）
- 上青木公民館（平成30年3月完成予定）
- 新郷南公民館（平成31年2月完成予定）
- 領家公民館（平成32年3月完成予定）

専門施設2施設

- 婦人会館（平成31年3月完成予定）
- 青少年会館（平成31年3月完成予定）
- ※婦人会館及び青少年会館は合築施設として改築

ウ 平成32年4月1日時点の耐震化状況（予定）

項目	対象施設
①全施設数（公民館等）	36
②新耐震基準施設	15
③旧耐震基準のうち補強不要な施設	1
④旧耐震基準のうち施工済施設	9

完了済み施設
②+③+④
25施設
耐震化率 69.4%

※婦人会館・青少年会館の合築により施設数が1減になっている。

エ 耐震化事業に係る主な費用

（単位：円）

施設名	設計委託料（契約額）	改築工事費（契約額）
幸栄公民館	（幸町小学校に含む）	838,563,840
芝南公民館	16,322,020	694,589,040
上青木公民館	13,599,586	1,044,920,196
新郷南公民館	4,662,360	（未定）
領家公民館	33,629,040	（未定）
婦人・青少年会館	27,175,176	（未定）

2 文化財センター等

文化財センターは、市民の文化の向上を目的として、文化財及びその関連資料の収集、保管及び展示、また歴史的・文化的価値のある施設を市民の利用に供することにより、市民の郷土の歴史及び文化に関する意識の普及啓発並びに学習機会の提供を行う施設であり、文化財センター（本館）、分館旧田中家住宅、分館郷土資料館の3館をもって構成されている。

当施設は、企画展やイベント開催日はもちろん、年間を通じて多くの見学者・利用者が訪れることから、耐震化を実施する必要性があり、逐次、進めているところである。

ア 平成28年4月1日までの耐震化状況

項目	対象施設
①全施設数	3
②新耐震基準施設	0
③旧耐震基準のうち補強不要な施設	0
④旧耐震基準のうち施工済施設	1

完了済み施設
②+③+④
1施設
耐震化率 33.3%

イ 平成28年度実施内容

○耐震診断

旧田中家住宅（平成29年3月完了予定）

ウ 耐震化事業に係る主な費用

（単位：円）

施設名	設計委託料（契約額）	補強工事費
文化財センター	—	44,276,268

3 図 書 館

全市民が利用する公共施設である図書館は、安全かつ安心して利用できるものであることが求められていることから、建築基準法の新耐震基準施行以前に建築された前川図書館、新郷図書館、横曽根図書館（併設の公民館を含む）について、耐震診断を実施し、その結果により施設ごとに必要な対応をするものである。

ア 平成28年4月1日までの耐震化状況

項 目	対象施設
①全図書館数	6
②新耐震基準施設	3
③旧耐震基準のうち補強不要な施設	1
④旧耐震基準のうち施工済施設	0

完了済み施設
②+③+④
4施設
耐震化率 66.7%

イ 平成28年度実施内容

○実施設計

前川図書館（平成29年3月完了予定）

ウ 耐震化事業に係る主な費用

（単位：円）

施設名	設計委託料（契約額）	改築工事費（契約額）
前川図書館	32,527,980	（未定）

4 スポーツセンター等

スポーツ施設は、生涯スポーツを通じて市民がスポーツに親しみ、健康の保持・増進やレクリエーション活動を行う場であるとともに、災害時の避難拠点等にも位置づけられていることから、利用者の安全及び耐震性を確保するため、計画的に耐震化を進めているところである。

ア 平成28年4月1日までの耐震化状況

項目	対象施設
①全施設数	13
②新耐震基準施設	5
③旧耐震基準のうち補強不要な施設	2
④旧耐震基準のうち施工済施設	1

完了済み施設
②+③+④
8施設
耐震化率 61.5%

イ 平成28年度実施内容

○実施設計

新郷スポーツセンター (平成29年3月完成予定)

青木町公園総合運動場陸上競技場 (平成29年3月完成予定)

ウ 耐震化事業に係る主な費用

(単位：円)

施設名	設計委託料 (契約額)	補強工事費 (契約額)
鳩ヶ谷武道場	3,885,000	77,595,000
新郷スポーツセンター	18,104,040	(未定)
青木町公園総合運動場陸上競技場	10,756,800	(未定)

(3) 地域におけるさまざまな資源の活用

・旧田中家住宅の利活用について

1 旧田中家住宅について

(1) 旧田中家住宅は、洋館棟（付属棟含む）、和館棟、文庫蔵、茶室棟、日本庭園と昭和48年頃の居住棟などから構成されている。平成18年(2006年)、洋館棟、和館棟、文庫蔵、表門・煉瓦塀が国登録有形文化財に登録された。

(2) 当該住宅は、大正・昭和期の煉瓦造・木造の建物で、その時代の建築様式が良好に表現されている。建物内部は、希少木材を潤沢に使用し豪華な装飾を施すなど、登録以前から、文化庁や日本建築学会などから県下随一の建物と注目されていた住宅であった。

(3) 国登録有形文化財に登録するにあたり、学術・文化的価値として評価された点は次のとおりである。

- ① 大正期の川口における素封家の繁栄を顕示する貴重な迎賓施設であること。
- ② 川口が芝川の舟運により発展したことを物語るランドマーク的建築物であること。
- ③ 明治期に本格的西洋建築を学んだ建築家に師事した技術者の設計で、その優れた力量が発揮された質の高いデザインを備えていること。
- ④ 川口における職人層たちの高い建築技術を表現した建築であること。



2 今後の課題

(1) 大正12年に建設された、築90年以上経過している建物であり、日頃、市民等への一般公開に供している。よって今後、来館者の安全性を確保するために、耐震診断を行った後、補強工事等の措置を講ずる必要がある。

(2) 国の登録有形文化財で、しかも洋館は、煉瓦造という現在では例の少ない工法で建てられている特殊性を有するため、耐震性の判断に際しては、専門家による見地が重要視される。

(3) 緊急輸送道路である国道122号線に面しているため、「川口市建築物耐震改修促進計画」において耐震化を優先して進めるべき建物に位置づけされている。

- (4) 当該住宅が位置する場所は、国道 122 号線の拡幅が都市計画決定されているエリア内で、建物の一部が拡幅範囲に該当しているため、将来対応が必要とされる。

3 施設利活用の方向性

- (1) 旧田中家住宅は、当初、「国の重要文化財」指定にも値するとの評価がなされていた。しかしながら、文化財建造物本来の魅力を多くの人に体感してもらう旨の活用を図るため、改修の規制が比較的緩やかな「国登録有形文化財」への登録を選択した経緯がある。よって、文化財としての価値を損なわず、構造上の安全性が確保される範囲であれば、施設内をリノベーションして更なる利活用を図ることが可能である。
- (2) 平成 17 年の購入当初、建物の活用のあり方について市民アンケートを実施したところ、現在行なっている建物内部の一般公開や茶会利用などの他、博物館(美術館)、ギャラリー、レストラン、カフェ機能を希望する意見が多く寄せられた。
- (3) 施設の利活用に際しては、文化財登録されている「本館」を中心とした、文化財建造物本来の趣きや魅力を伝えるための「保存部分」と、その魅力を体感した後の余韻を楽しむための新たな機能や用途を付加した、登録外の「茶室・庭園」の「改修部分」と明確なゾーニングを図るといった基本的な方針で望みたい。
- (4) 上記基本方針に基づき、今後、国の「文化財建造物を活かした地域活性化事業」補助金を活用し「保存管理活用計画」を策定。建物の耐震化等を措置した後、本施設を地域活性化を推進する文化拠点として位置づけ、市内外に対し広く川口の文化を発信する。併せて、観光資源としての一助を担う役割を通じ、集客向上、リピーター獲得による賑わい創出、地域経済活性化等、多種多様な町の活性化に寄与する効果が期待されるよう、更なる利活用を推進する方策を展開したい。

4 利用状況

※平成 29 年 3 月 7 日現在

年度	見学者数(人)	入場料歳入(円)	施設利用者(団体)	使用料歳入(円)
21	5,082	855,880	541(9)	92,000
22	4,364	733,080	548(16)	81,724
23	3,918	657,700	640(16)	116,000
24	3,739	707,215	389(14)	112,930
25	3,756	627,490	1,076(15)	144,930
26	4,662	761,295	598(12)	132,450
27	4,916	878,620	754(27)	254,820
28	6,744	1,069,560	2,029(26)	291,810

5 民間まちづくり実践セミナー実施状況

- 1 主催 政策研究大学院大学
- 2 共催 川口市（所管:都市計画課）
- 3 日時 1月28日（土）・2月11日（土）
- 4 場所 中央ふれあい館
- 5 概要

旧田中家住宅について、2グループ19人の参加者が、現地調査やワークショップを行い、専門家のアドバイスを受けながら、建物のリノベーションや地域再生に対する様々な提案を行った。概要は以下のとおりである。

- ①入場料や貸館料を廃止し、イベント来場者からの収益を確保する。茶室をカフェとして運営し、併せて川口の文化発信を行うアンテナショップとする。本館では、アート等のワークショップや文化財の魅力を活かす茶会等を行う。
- ②洋館をロードサイドカフェと特設イベントスペースにする。茶室をフォトスタジオとし、日本文化を体験できる施設とする。和館・文庫蔵を川口市の歴史・文化の発信地とする。庭園の一部を駐車場とする。
- ③茶室棟は文化熟成を促すロースターカフェとする。洋館・和館は、大人の教養や趣味を学ぶ場とし、庭園では、月1回マーケット等のイベントを行う。経営は、複数団体に連携し行ない、利益の10%を川口市に支払う。
- ④歴史的な建物を活かし、茶室を高級割烹料理店とする。
- ⑤茶室棟を **MISO** カフェの物販併設型ショップとし、川口周辺でおしゃれにゆったりランチをしたい主婦や **SR**・南北線沿線の新たな観光客を呼び込む。南平地区の歴史資料館を併設し、定期的にイベントを開催する。運営は、複数の団体が共同で行い、利益の50%を川口市に支払う。

これらの提案を踏まえ、専門家の主な意見は次のとおりである。

- ①教育委員会が運営すること自体を見直した方がよいのではないかと。
- ②施設マネジメント技術としては、人材育成と組織作りが必要なため、その準備として市民と行政の連携の構築が重要である。
- ③歴史的建物の維持・経営は、イベントだけでは難しく、地域ぐるみの作戦が必要である。
- ④一方で、引き続き建物等の価値を掘り下げていく必要がある。最終的には建物の価値が必ず活動を支えることになるから、その価値に見合った人（＝建物と心中してもよいと思っている人）が携わるとよい。

